

ま え が き

令和3年度大学入学共通テストは、大学への入学志願者に、高等学校の段階における基礎的な学習の達成の程度を判定し、大学教育を受けるために必要な能力について把握することを目的として、令和3年1月16日・17日及び1月30日・31日（特例追試験2月13日・14日）に173の全ての国公立大学と533私立大学、5公私立専門職大学、155公私立短期大学が参加して実施されました。受験者数は484,114人で、新型コロナウイルス感染症予防対策等も講じながら実施した試験は、多くの関係者の方々の御協力により終えることができました。

独立行政法人大学入試センターでは、大学入学共通テストの試験問題の分析・評価を行うために、大学入学共通テスト問題評価・分析委員会を設置しました。当委員会は、各都道府県教育委員会等の指導主事や高等学校教員等の高等学校教育関係者から成る外部評価分科会と、試験問題を作成した問題作成部会委員から成る自己点検・分析・評価分科会の二つの分科会で構成されています。

試験終了後、大学入学共通テストで出題された試験問題の内容、範囲、分量、程度、表現、形式等について、まず、外部評価分科会が評価を行い、また、これとは別に、各教科・科目に関連が深い関係教育研究団体からも意見・評価を頂いております。

このたび、これらの意見・評価に対する自己点検・分析・評価分科会の見解を付して、「令和3年度大学入学共通テスト問題評価・分析委員会報告書」を作成いたしました。本報告書の内容は、今後の大学入学共通テストの問題作成に寄与することはもちろん、各大学における入学試験問題作成の参考にもなると考えております。また、高等学校における各科目の教育の参考資料としても御活用いただければ幸いです。

大学入試センターとしては、大学入学共通テストの試験結果等を十分に分析、研究するとともに、本報告書に掲載されている意見をはじめ各方面から寄せられた意見を参考にして、より良質な試験問題の作成に取り組んでいく所存であります。

各位の御支援と御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

令和3年6月

独立行政法人大学入試センター 試験・研究統括官

大学入学共通テスト問題評価・分析委員会委員長 大津起夫